同友 みやざき
DOYU MIYAZAKI journal
No.426
2025. 7. 10
info@miyazaki.doyu.jp
https://miyazaki.doyu.jp

今月のスポットライト Spotlight

地域を元気にしたい！ 地域貢献を信条に事業拡大

かわさき屋㈱
代表取締役
川﨑 勇樹さん
宮崎北支部

事業について教えてください

大学卒業後、農機メーカーや焼酎メーカーに勤務。その後、入社した会社で切り干し大根を扱う事業部の立ち上げに携わります。これが切り干し大根との出会いでした。3年後にその事業部を買い取り、地域商社としてスタートを切りました。

農家さん達は、切り干し大根を生産する力はあるのですが、販売する力が弱く、収益に結びついていませんでした。我が社は、地域商社として、農家さんの収益を上げるお手伝いをしています。

今後は、「一緒に取り組む仲間」取引先や社員」を増やすために、新入社員を定期的に採用して雇用拡大を図っていきたいと考えています。新入社員の彼らが地域活性化に積極的に取り組む体制をどう確立していくかを模索しているところです。

営業経験がないままの独立でしたが、「家あってのかわさき屋」の思いで、農作、「不作に関係なく、農家さんと一緒に商品化に取り組み、地域を元気にしたいという一心で、販路を県外にまで拡大できるまでになりました。「宮崎が好き」という思いを人一倍強く持って、「宮崎を元気にする」ために経営しています。

同友会に入会されて学んだことをお聞かせください

入会して、13年になりました。入会のきっかけは宮崎北支部の仲間でもある㈱MOMIKIの籾木真一郎さんの紹介でした。独立したばかりで、経営をしている人が周りにおらず、非常に心細い思いをしている時のお誘いでしたので、すぐに入会しました。なので、同友会歴は、我が社の社歴と一緒です。

グループ討論で、経営について議論することは、経営者の卵だった私には、非常に新鮮な経験でした。また、気軽に経営について相談できる場も、私にとっては、ありがたかった記憶があります。同友会では、困っているときに、話を聞いてくれる人がいることが心強いです。

それからは、例会やフォーラムの参加を通して、同友会活動の良さに触れ、経営者意識が大きく変化しました。同友会では、主に共同求人委員会活動をやっています。委員長になって3期目ですが、「新卒採用＝地域づくり」であり、採用は地域の課題に直結していることを、再認識しました。地域に若者を残し、地域の担い手、会社の担い手として、みんなで育てていく。そういった地道な活動を通じて、地域や会社がもっと良くなっていけばと思い、活動をおこなっています。今後とも企業がよくなれば、地域も良くなるということを発信続けていきます。

これから事業展開についてお聞かせください

切り干し大根を中心としたラインナップで、13年事業を継続してきました。現在では、『地域商社』という思いを軸に、新たな取り組みにチャレンジし、農産品だけでなく、加工食品の加工、販売にも取り組んでいます。

今後は、「地域商社」として、宮崎県産の商品を、世界に送り出していきたいと考えています。そして、その活動を通じて、宮崎により良い雇用や産業を生み出していき、地域活性化の一助となればと考えています。

かわさき屋㈱
住所／東諸県郡綾町大字北俣4567－1
TEL／0985-30-7371　FAX／0985-30-7372
事業内容／食品卸売(切干大根、木耳、黒にんにく等)

こんなにも宮崎を愛し、仕事を愛し、仲間を愛していることを、真っすぐと語りきれる経営者をあまり知りません。佐土原町で育ち、綾町で仕事をして、リフレッシュはもっぱら運動や勉強を頑張っている子供たちを応援すること。共同求人委員長としての決意も聞くことができました。
経営者としだけでなく、一人の人間としても楽しみを感じさせるインタビューでした。

インタビュー　Sun橋㈱　土持秀男
SunPower　森田義孝

DO YU 活動ズームアップ

［ ひむか支部 ］

同友会を知る会拡大バージョン案内

7月28日(月)西都商工会議所にて、ひむか支部＆組織強化推進協議会合同同友会を知る会拡大バージョン(例会)を開催します。経営指針委員会委員長でもある東郷浩二氏(㈲東栄空調 代表取締役・宮崎北支部)を報告者に迎え、「経営指針経営～成し遂げたいのは、会社の真の成長～」と題して学びを深めます。座長は宮島代表理事が担います。経営指針経営がなんなのか、経営指針経営ってよく聞くけど具体的にはどういうことなのかを学びあいましょう。西都市はもちろん児湯地域、自支部のゲストの方をお誘いしご参加ください。

九州・沖縄ブロック役員研修会

5月26-27日に、佐賀同友会設営で第19回九州・沖縄ブロック役員研修交流会in佐賀が行われました。宮崎同友会から17名が参加。役員研修会では、ここには書き切れないほどの学びがありました。どんな学びがあったんだろう、何が良かったんだろうと思った方は、来年一緒に参加しましょう。来年は、長崎です。学びを共有しあいましょう。

［ 青年部会 ］

九州・沖縄ブロック青年部合同例会

6月13日(金)に九州・沖縄ブロック青年部合同例会が鹿児島で開催されました。参加者196名のうち宮崎同友会からは28名が参加。第2分科会で、㈲東広告社の東由子さん(宮崎北支部)が「自分がかわれば、会社が変わる！」をテーマに報告（4頁に報告要旨掲載）。グループ討論では経営についてどう学びどう実践するのか討論し学びを深めました。九州の青年経営者の交流と学びを深めあう素晴らしい合同例会となりました。

＼新着まだまだ、たくさん活動しています！／
活動内容は同友会Facebookでも配信中!!

6月理事会報告

日時：6月25日（木）17:00～20:45　於：宮崎市民プラザ＆Zoom会議
理事29名中24名出席（出席率82.8%）＋事務局3名

01. 前回理事会（5月29日）以降の活動の経過報告を確認するとともに、6月25日までの3名の入会申し込み と2名の退会申出を承認しました。会員数は463名。
各組織からの活動の振り返りのなかで、提起された下記2点について対応を確認しました。
・宮崎北支部よりブラウドノート（文字おこしソフト）の活用にあたっての ルール整備について提案があり、宮崎北支部幹事会で原案を作成し、次回理事会に提案することとしました。
・青年部会より「（公社）日本青年会議所・九州地区宮崎ブロック協議会からの『「高付加価値インバウンド推進組織」の発足に向けた団体間協議への参加協力要請』については、その趣旨を確認し、「判断に迷うことがあったら持ち帰る」という条件のもと承認しました。

02. 中同協第56期第5回幹事会（6月3日、Zoom開催）について、那須代表理事より報告。とくに佐賀同友会からの申請にもとづき財政・組織支援が承認されたこと、それに伴い、知り合いの佐賀県在住の入会対象者を紹介してほしいと要請がありました。

03. 各推進協議会から
（1）組織強化推進協議会より
①7月28日(月)、西都商工会会議室で開催する「同友会を知る会拡大バージョンin西都」へのゲストお誘いの要請がありました。この例会の入会目標は2名です。
②8月6日（水）オンライン開催の「2025組織強化・会員増強全国交流会」には、各支部でサテライト会場を設置予定であり、理事80%、支部・青年部会幹事50%を参加目標としている。
（2）人が育つ会社づくり推進協議会より、「同友会を強くする役員の成長」という視点でつくり込んでいる秋の役員研修会（9月20日(土)）の準備状況の報告
（3）地域づくり推進協議会会より
①4-6月期景況調査中間協・経営実態調査への協力要請
②新春経営者交流会の企画準備状況にいて報告

04. 経営フォーラムについて、
（1）第34回経営フォーラムの準備について小原実行委員長より第4回実行委員会報告。テーマ案について意見が出され、実行委員会で再度検討することと、7月の各支部幹事会では、参加目標達成に向けての行動計画を検討し、各支部の副実行委員長に伝えることを確認しました。
（2）第35回～第40回のフォーラム開催の主管支部について、下記のように確認しました。
35回(2026年度)宮崎北支部、36回(2027年度)県北支部、37回(2028年度)きりし支部、38回(2029年度)宮崎南支部、39回(2030年度)ひむか支部、40回(2031年度)宮崎北支部

05. 宮崎同友会30年史の制作について、5月理事会での検討持ち越し課題については、論議がまとまらず次回理事会で再度検討。そのなかで原稿確認については、全会員に6月26日から4回に分けてe.doyu掲示板を通じて配信していくことを確認しました。

UP DATE information

＼法人化おめでとうございます／

会員登録情報変更
Office MIRAI
代表　川路 美紀さん（きりし支部）から
新 ㈱Create MIRAI　代表取締役
都城市天神町 18 街区 8 号 Noah 天神 901
事業内容　司会・モデル・タレント事務所、イベント企画・運営

会員登録変更
AUBEgroup
おかみ　松尾 裕子さん（宮崎北支部）から
新 若女将　松尾 知咲さんに会員登録が変更されました

住所変更
Sun橋㈱
代表取締役　土持 秀男さん（宮崎北支部）
新 宮崎市大工1丁目9−15 マギーコーポ 102 号
TEL：0985-69-0779
FAX：0985-69-0463

役職変更
㈲もりなが
取締役会長　守永 泰雄さん（宮崎北支部）
新 相談役に就任されました。
㈱アレンジ　杉村 善隆さん（きりし支部）
新 代表取締役に就任されました。
㈲別府損害保険事務所
専務取締役　別府 昭人さん（きりし支部）
新 代表取締役に就任されました。

「企業変革支援プログラム Ver2」で課題を見える化 活用して、強靭な企業づくりをすすめよう

今年度の支部例会では「企業変革支援プログラム Ver2」の各カテゴリーを順次取りあげての例会づくりが行われています。県北支部 6 月例会は、この取り組みのキックオフ例会として、福岡同友会の㈱ルックルック代表取締役貞兼朋記氏を報告者に迎えて学びあいました。以下、貞兼氏の報告要旨です。

「人を生かす経営」の実践
～社員と現状認識を一致させ、全社一丸体制を築く～

㈱ルックルック　代表取締役　貞兼 朋記 氏
（福岡県中小企業家同友会代表理事）
設立／2011 年 9 月
売上高／5 億 3 千万円（2024 年 8 月期）
社員数／21 名
事業内容／健康食品及び化粧品の通信販売

コールセンター事業の閉鎖と「人を生かす経営」との出会い

私自身が「人を生かす経営」に真剣に取り組み始めるきっかけになったのは、2000年から13年間続けていたコールセンター事業の閉鎖という苦い経験でした。

事業を閉じた翌月、私は宮崎で開催された中同協の定時総会に参加。分科会のテーマは「人を生かす経営」でした。そこで聞いた言葉が強く印象に残りました。一つは「経営指針書は絶対に毎年更新して、少しずつでもいいから社員を巻き込んでください。もう一つは「社員の自発性が発揮される環境をつくることが大切です。これを聞いて、「ああ、自分はできていなかった」と深く反省し、再チャレンジを決めました。

2013年9月、グループ内で準備していた通販事業があったので、それを本格的に立ち上げて、もう一度経営に向き合おうと腹をくくったんです。そのときに決めたのが、経営指針書を毎年更新すること、社員の自発性が発揮される環境をつくることという二つです。

社員を巻き込んだ指針書づくり

私がめざしたのは、理念を体現した行動の延長線上に、自然と業績がついてくる ― そんな一貫性のある経営です。毎年経営指針の更新を重ね、おかげで 2016年以降、事業は急速に売上を伸ばしましたが、社員の働き方にひずみができました。社員と話し合い、働き方の見直しを行い、残業ゼロと売上維持の両立を実現できました。

ある時、福岡同友会の福岡南支部の勉強会に参加して、ある会員さんが「社員の意見や提案を経営指針書に反映するしくみ」を導入していることを知りました。「なんて素晴らしい取り組みだ」と感動しましたが、同時に「うちではまだ早いかな」と思ってしまった。なぜかというと、当時は給与水準や待遇に自信がなく、社員の本音を聞くのが怖かったからです。

その翌月、仙台で開かれた中同協の定時総会に参加しました。分科会の座長がまとめの言葉でこう言ったんです。「経営者の価値観を押し付けてはいけない。違いを認め合う覚悟と実践が必要です」。「そのためには、社員の思いや希望を聞く “ 仕組み ” が必要です」。

その瞬間、ハッとしました。「社員の声を聞く覚悟」があるつもりでしたが、そのための “ 仕組み ” が何もなかったんです。つまり、覚悟と実践ができていなかったんです。帰社してすぐに、社員からの声を集める仕組みをつくりました。有給休暇、短時間勤務制度、業務改善、給与のことまで、いろんなテーマで社員から意見を書いてもらい、すべての質問に経営者として回答しました。

企業変革支援プログラム Ver.2 との出会い

昨年沖縄で開催された九州・沖縄ブロック役員研修交流会の二日目のテーマは「企業変革支援プログラム Ver.2」の実践でした。その中で「社員との現状認識を一致させることの重要性」を強く感じました。社員と対話しているつもりでも、私が見ている現状と、社員が感じている現状が噛み合っていないことに気づかされたんです。

「社員それぞれが何を見て、どう感じているのか」まで共に見ていく必要がある。そう実感した私は、すぐにこの「企業変革支援プログラム Ver.2」の導入を決めました。最初は半信半疑でしたが、やってみるとこれが非常に有効で、私にとっては「経営者としての自分を映す鏡」のようなものでもありました。社員との “ 見え方のずれ ” が、点数という形であらわになる。これはとてもインパクトがありました。

現状認識を一致させるワークの実施

まず、全社員にエントリー自己診断シートの記入をしてもらいました。26 項目それぞれに 0 から 5 の成熟度をつけてもらう。すべて記名式としました。「名前を書くと、本音で書けないのでは」という声もありましたが、「しっかり受け止めるから、正直に書いていいよ」と伝えて、社員の自己評価を集めました。集計してみると、社員がどのように感じ、どこに課題を抱いているのかがはっきりと数値化されて見えてきました。

さらに、優先順位シートというワークを行いました。26 項目それぞれに対し、緊急性と重要性の観点から評価してもらい、点数を足し合わせて合計スコアを出す。そして、「その中から、今年 1 ～ 2 項目だけに絞るとしたら何に取り組む？」と問いかけました。社員一人ひとりが今の会社にとって本当に必要なことを考え、言語化することができました。

ここでも面白い違いが見えました。役職が上がるほど、組織づくりやコミュニケーション、経営指針に関する項目を挙げていて、現場の社員ほど日常業務や実務改善の項目を挙げていたんです。これは、視座の違いとしてとらえることが大切で、優劣ではありませんでした。この視座の違いを見える化したことで、経営側と現場側の両方から、課題を立体的に捉えることができました。

最終的に 2 つに絞りこんだ項目の本編を社員それぞれで実施して集約しました。つまり「社員 20 名が考えた 20 通りの今後の取り組み」ができました。これを役職者が集まって協議を重ね「会社としての今後の取り組み」にまとめ上げました。私自身はこの協議には一切参加していないのですが、「企業変革支援プログラム Ver.2」を頼りに役職者が主体的に考えてまとめ上げた「今後の取り組み」は、とれも同友会らしい素晴らしい内容で、今のルックルックに必要なものばかりとなりました。

役職者が変わることで会社が動き出す

この取り組みを通じての大きな変化は、役職者たちが自己変革に踏み出してくれたことです。役職者や幹部が変わってこそ、本当に組織が動き出すと実感しました。企業変革支援プログラムのような “ 見える化された仕組み ” によって、役職者たちも「自分が変わらなければならない」と納得を持って気づいてくれた。それは、会社にとっても、私自身にとっても、大きな財産となりました。

このプログラムを通して、私たちは現状認識の一致、社員の主体性の発揮、組織のうねりを少しずつ実感することができました。もちろん、すぐにすべてが変わるわけではありません。そういった「兆し」が見えてきたこと自体が、何よりの成果だったと思っています。

これからも、「人を生かす経営」を軸に、社員とともに未来をつくっていきたい。まだまだ道半ばですが、同じように悩み、実践している皆さんの力になれるよう、これからも一歩ずつ進んでいます。

例会では貞兼社長の報告につづいて、参加者全員で「エントリー自己診断シートの記入」、「優先順位シートの記入と自社の優先順位の決定」、「優先順位項目をもとに本編活用と取り組み内容の明確化」と進みました。

参加者からは「人を生かす経営の実践にむけて、このプログラムで自社の課題が浮き彫りになり、これからどのような取り組みが必要か学べました。社員の “ 考え・思い・希望 ” を聞く仕組みをつくります。」「課題の優先順位が明確になりました。」といった感想が寄せられました。

7 月からは 6 つのカテゴリーのテーマにそっての実践報告です。

（文責　事務局　結城 美佳）

DO YU MIYAZAKI journal
発行／宮崎県中小企業家同友会　宮崎市恒久南3丁目3-2 恒吉ビル2F
TEL／0985-50-3665　FAX／0985-50-3653
info@miyazaki.doyu.jp
宮崎同友会 IQ
miyazaki.doyu.jp
青年部公式LINE

第４回九州・沖縄ブロック合同例会・第２分科会報告要旨

6月13日（金）、鹿児島同友会の設営で第4回九州・沖縄ブロック合同例会が鹿児島同友会の設営で開催され、宮崎同友会から会員・事務局28名（うち県外での全国行事初参加7名）、九州各県から合計196名が参加して3つの分科会と懇親会で学びと交流を深めました。
3つの分科会の分科会のうち、第2分科会は、宮崎同友会の㈱東広告社の東由子氏が報告。その報告要旨をご紹介します。

自分が変われば会社が変わる ～学び場づくりを通して得た気づきと変化～

㈱東広告社　代表取締役　東 由子 氏

倒産寸前からの一歩目――孤独な経営者としての目覚め

こんにちは、宮崎市で広告代理店を営む東広告社、代表の東由子です。家族経営の小さな広告会社を４代目として引き継ぎ、今年で代表９年目になります。

私は、2016 年に社長に就任した直後から経営の厳しさに直面しました。最大のクライアントが業績不振となり、支払いが滞るようになったことをきっかけに、会社は一気に資金難に。放送局への買掛金が膨らみ、営業ができなくなる＝倒産寸前の状態になったのです。

当時は「とにかく営業、売上を上げないと」「私しかいないから動くしかない」と、がむしゃらに走っていました。でも実際は、決算書の読み方さえ分からない営業マン社長でした。

そんな私が変わる転機となったのが、宮崎同友会との関わりでした。入会から３年間は幽霊会員で、例会等への誘いも「忙しいから」と断ってばかりでしたが、そんなある日、先輩経営者からフォーラム実行委員に誘われ、「断れない営業マン」の性で 2020 年度の第 29 回フォーラム実行委員を受けたのが私の同友会活動の始まりでした。

仲間とつくる「学び場」が教えてくれたこと

実行委員として関わっていくうちに、二人の“兄貴”と呼べる先輩に出会い、仕事だけでなく、経営の悩みまで本音で語れる関係ができていきました。そして「自分が変われば会社が変わる」という言葉を胸に、その翌年、第 30 回経営フォーラム実行委員長に立候補する決断をしました。

この一年間はまさに、自分の殻を破る経験の連続でした。まだコロナ禍が続く中、30 人以上の実行委員をまとめ、フォーラムの分科会はすべてオンラインで運営するという未体験の状況の中、「誰をどう巻き込むか」「どう想いを伝えるか」に必死でした。２日に１回は同友会の行事に出るほどの濃密な時間を通して、私は一人プレイヤーからリーダーへと意識が変わっていきました。

印象深いのは、任された責任の重さよりも、仲間と創った“場”が生み出す感動です。一つの目標に向かって多様な人と協働すること、そして「成果をつくる」ことで得られる一体感と学びの深さは、何物にも代えがたいものでした。

社内にも変化の風を――理念と価値観の共有

フォーラムでの経験で「学び場づくり」の面白さを実感した私は、ＪＣやＹＥＧといった宮崎県内の他の青年経営者団体が集っての「みやざき青年ビジョン会議」や「青全交 in 宮崎」づくりなどにも関わるようになり、さらに広い視野で人とつながることを意識するようになりました。

宮崎同友会の「経営指針をつくる会」に参加して経営理念を作成しました。そ時には、社員と共に経営理念とコアバリューをつくりました。経営理念「スポットライト」には、お客様の魅力をまっすぐ誠実に照らす存在でありたいという想いを込めました。そして「ありがとうを大切にする」「相手目線」「ゼロイチへの挑戦」など、共通の価値観を９つ設定し、社員と共有しています。

このように取り組みを始めてみると、社内の雰囲気も少しずつ変化しました。営業先へのアポでは“この提案は必ず決める”という強い意識が芽生え、放送局や協力会社との連携もどんどん深まっていきました。最近では「魂のある代理店ですね」と言っていただけることもあり、自社の在り方に誇りを持てるようになりました。

また、放送局の新人の営業とペアを組んで飛び込み営業をするなど、従来のやり方にとらわれない柔軟な取り組みにも挑戦しています。こうした日々の積み重ねが、会社の売上だけでなく、信頼や評価にも確実につながっていると実感しています。

経営者として進化し続けるために

この６年間で最も大きく変わったのは、「私は営業マンではなく、経営者である」という自覚が芽生えたことです。会社の未来を描くこと、社員とその家族の人生に責任を持つこと。これまで一人で抱え込んでいた私は、今ではチームで成果をつくることの価値を信じ、社員と理念やビジョンを共有しながら前に進んでいます。

2023 年度は、経営指針書を銀行に提出し、売上低下の局面でも冷静に資金対策ができました。これは、フォーラムやビジョン会議で学んだ「準備する力」「数字で語る力」の成果だと感じています。

まだ課題は山積みです。制作分野の強化、採用戦略、財務基盤の整備――でも、その一つひとつに向き合う姿勢こそが、経営者としての「歩み」だと思っています。

DO YU MIYAZAKI journal

訪問記 ほうもんき Vol.63

明治初期から続くちりめん加工会社
～宮崎の海産物を通して、人を笑顔に～

㈱日高水産
代表取締役 日高 慎太朗さん
［県北支部］

同社の歴史は長く、正しい創業年は分からないものの、高祖父の日高梅太郎氏が１892年（明治30年）に褒賞を表彰された第2回水産博覧会での表状が残っているそうです。

１937年（昭和12年）には、曾祖父の日高国治氏が方財地区での小船（こしわ）の漁獲高を競う大会で優勝。その後、祖父の隆太郎氏が１981年（昭和56年）に㈱日高水産を設立、２013年（平成25年）に商号を㈱日高水産に変更しました。

２018年（平成30年）に慎太朗氏が代表取締役社長に就任し、現在は社員11人、パート６人、漁船を８隻所有しています。

㈱日高水産

日高水産は、延岡市方財町にあります。この場所は五ヶ瀬川と大瀬川二つの河川に挟まれており、一つしかない橋を通ってのみ行ける所です。橋を渡って堤防沿いの道を真っ直ぐに進むと港の側に、㈱日高水産」とでっかく壁に書かれた大きな工場が見えてきます。工場の入り口では、日高さんが出迎えてくれました。取材は２階にある事務所で行いましたが、事務所に行く前にちょっと寄り道をして、１階で工場見学をさせてもらいました。残念ながら、加工作業は見れませんでしたが、ちりめんを加工する機械や清潔に保たれたクリーンルームのような部屋で、社員さん達がちりめんの出荷作業に追われている様子を見ることができました。「写真を撮らせてください」と言うと、ちりめんの出荷直前の箱を部屋の入り口までわざわざ持ってこられ、中身を見せてもらいました。

社

長さん達は、海に出てちりめんを取る方達と水揚げされたちりめんを素早く加工発送を担当毎に行っています。ちりめんを取る人達は、朝５時30分に出勤して、そのまま日の出から日没まで海に出ています。漁から帰ってくると船着場のすぐそばの工場に水揚げ。「水揚げから加工まで90秒」をモットーに、生産から出荷まで、社内で一貫して行っています。慎太朗氏は、自ら漁船を操縦し漁場に出ています。

加

工したちりめんは、主に豊洲市場に出荷しています。しかし、２019年（令和元年）から徐々に漁獲高が減り、漁場に行くだけで赤字になる状況になっています。このままではいけないと打開策を検討し、ギフトセット・おつまみ・お菓子シリーズなどを開発、県産シラス１00％使用のスナック「ちりめんポリポリ」を昨年６月に発売。今年７月には、食塩を使わずちりめん本来の味を生かした第２弾を販売開始します。「何かしないと生き残れない」と懸命に挑戦しています。

同

友会を知ったきっかけは、デザイン・経営の勉強会で金丸亨さん（㈱金丸慶蔵商店　代表取締役・県北支部）との出会いでした。その勉強会では、話をするだけで分かりましたが、その後金丸さんから「同友会で全国の仲間と学びあう会があるんだけど参加しない？」と誘われました。そして初めて参加した活動が、昨年９月に宮崎で開催された「第52回青年経営者全国交流会」。「知らない人ばかりで緊張しましたが、驚いたのはみなさん目が輝いて自社のために何か学んで帰ろうとしていたこと。その時の報告で、たった３人しかいない社員でも話が通してなかったと話があり、気づきの多い交流会でした。例会に参加するたびに新しい学びがあり気づきがあります」と語る日高氏。今までは異業種との関わりもなく、うまく話もできませんでしたが、グループ討論での交流や室長、総会の議長を任せられたりして自信がついてきているそうです。

日高氏は、県北支部で開催している「柳会」にも参加をしています。「昔ながらの組織体制で黙って言うことを聞け。俺の背中を見て盗め」という社風が残っているので、自分はもちろん会社としても変わっていきたい。私の同友会での学びは、自社を変えるための学びであって、「とう社員と共有するかがこれからの課題」とこれからの展望をにこやかに話す中に、強い思いを感じました。

最

近では、一人ひとりの話を聞いて、今まで社長の自分が気づいていなかった愚痴や不満がたくさんあることが分かったそうです。今まで情報を共有したり、会議をしたりすることは無かったそうです。しかし、同友会の仲間と出会い、「はっ」とする気づきが多く、いっぺんには改善できませんが、みんなで一つひとつ解決していきたいという思いを感じっていました。

「不漁で、会社経営が厳しい状況だからこそ、全社一丸となってアイディアを出しあっていけば、これからは希望が持てる」とインタビューを締めくくってくれました。

㈱日高水産
住所/ 延岡市方財町76-3
TEL/ 0982-35-6424
FAX/ 0982-35-6400
事業内容/ 水産製品製造業(しらす)

日高さんは入会して間もないですが、とにかく同友会に入会して、今まで経験したことのない経験をして学んでます。社員さんと素直になって話していくことで真剣に明治初期から続く会社体制を自分の代で変えていきたいのだと思いました。

取材
黒木デザイン社　代表　黒木 紹一

Facebookより

先日、宮崎南支部６月例会「責任と覚悟を持って！～社員さんから意見が出てくる社風作り～」というテーマで、㈱カーオレンジの南平義春氏の経営体験報告がありました。

最大の危機を社員さんとの信頼関係で乗り越えたエピソードは、涙ものでした。座長のまとめも素晴らしかったです。

その要諦は、経営指針発表会とそのときのグループ討論を通して、方向性や情報が共有されていたこと、社員さんの人生を預かる覚悟が伝わっていたこと、社員さん一人一人に個の人間として向き合い社員さんの人生を「一緒に」大切にする姿勢、そして社員さんのやりたいことにもコミットする度量にあったのではないでしょうか。

広報誌にチラシを同封しませんか？

宮崎同友会会員限定で広報誌にチラシを同封することができます。チラシは、お送りしたい月の前月末までに事務局にお送りください。自社での取り組み、やっていることを他の仲間にも知ってもらいましょう。

チラシの封入は１部 10 円です。

会員460名に封入する場合は、460名×10円で4,600円になります。

ご自身の所在支部のみ、特定の支部だけに封入することも可能です。

同封をお考えの方は一度事務局までご連絡ください。

新パートさん紹介

はじめまして、6月1日付でパートとして入局しました中川順一郎と申します。

今年、高校卒業以来43年ぶりに千葉県船橋市から実家のある宮崎市へ引っ越してきました。

不慣れな点が多々あると思いますが、中小企業の経理の経験者として、事務局の一助になれればと思います。宜しくお願いいたします。

NEW FACE

今回のご紹介は6月1日～6月30日に入会された1名の新会員さんです。
（支部別・50音順）

医療法人隆和会谷山歯科医院

宮崎南支部

理事長 **谷山 隆一郎**さん（59歳）

皆様のお口の健康と全身の健康を守るために全力を尽くしてまいります。スタッフ一丸となって患者様お一人おひとりに素晴らしい笑顔になっていただけるよう日々がんばっています。最新の歯科医療を提供できるように皆で常に前向きに仕事をしています。

宮崎市福島町寺山147−128
TEL / 0985-59-5540　FAX / 0985-59-5540
業種 / 歯科医師

県北支部	61名
ひむか支部	28名
宮崎北支部	135名
宮崎南支部	79名
きりしま支部	160名
合　計	463名

※2025年6月30日現在